

あ お き      み な  
**青木 美菜さん**

静岡文化芸術大学 4 年生

## ●浜松でなければ体験できない「音楽」

プロムナードコンサートなどまちなかで音楽に触れられるところが浜松の良いところ。昨年秋には、やらまいかミュージックフェスティバル in はままつ、バンバン！ケンバン！浜松、ハママツ・ジャズ・ウィーク、浜松国際ピアノコンクールといった音楽イベントが6週連続で行われた。連続したイベントは単独開催よりも効果があるし、県外の人への宿泊も見込める。

このうち、「バンバン！ケンバン！浜松」は、文芸大で行なわれたこともあり、参加しやすいイベントだった。大学が関わったり、市民が参加できたりするイベントがもっとあればよい。

私は、小学生から高校卒業までジュニアクワイア浜松に入っていた。母も前身となる児童会館少年音楽隊に属し、姉もジュニアオーケストラ浜松に入っていて、音楽のまちの発展に関わってきた。また、アクトシティ音楽院の主催者養成セミナーを受講し、コンサートの企画・運営について実践を含めて学ぶことができた。いずれも浜松に住んでいなければ体験できなかったことであり、社会人になっても音楽に関わっていければと思っている。

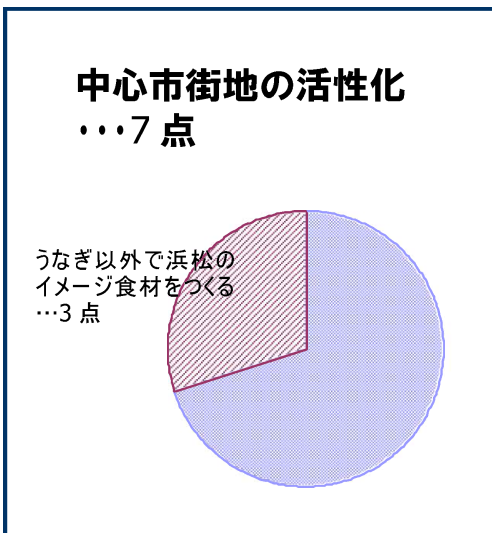


[青木美菜さん]  
平成24年度のミス浜松。1年間の活動を通じて多くの人と交流を持ったことは大きな財産となったと語る。また、大学の卒業研究では、浜松市児童会館少年音楽隊について調べている。

## ●アートやデザインで中心市街地を盛り上げて

静岡市の中心市街地のように小さい店にも頑張ってもらいたい。そのために、若者が中心市街地でも出店できるように、土地、オフィスや店舗を安く提供できるなどの仕組みをつくってほしい。また、市民の興味を引くために、アートやデザインを前面に出して盛り上げていく方法も考えてみたい。

また、浜松駅にも工夫が足りない。例えば、駅を降りたら浜松独自の音楽が流れるなどの工夫があればよい。市が出世大名家康くんをPRしているにも関わらず、駅でグッズを買えるところが少ないことも残念だ。



【浜松市への期待度グラフ】

## ●うなぎ以外のイメージ食材を！

浜松といえば“うなぎ”というイメージがある。しかし、ミス浜松の活動をしている中で、浜名湖の漁師から「浜名湖には他にも取れるものがあるから、うなぎばかり推すのもどうか」という話を聞き、牡蠣の養殖なども盛んであることを知った。うなぎの価格が高騰する中で、別の海産物も推しても良いのではと感じた。

あきもと けんいち  
**秋元 健一さん**

株式会社ドルフィンキッズプロダクション 代表取締役

### ●天下取りを育てたまち、浜松

私は東京生まれだが、子どもの頃は夏休みの大半を浜松で過ごしていた。野菜や魚介が新鮮で非常においしかった記憶があり、自然も豊富で何もかも素晴らしく魔法の国に来たように感じていた。その影響もあり私の店で使っている食材の95%は浜松産である。その頃から徳川家康公が好きで、負け戦も多かった家康公がなぜ天下を取れたのか、興味を持っていた。家康公が若く、血気盛んな時期にこの地で生活していたということは、浜松の食材、環境が天下取りを育てたということである。

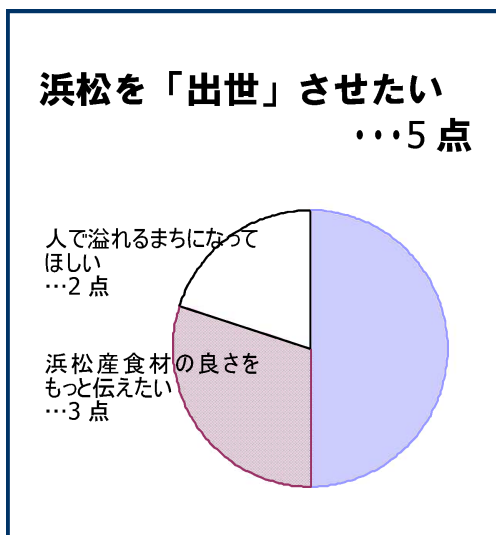


### ●300年前から長生きの秘訣だった浜松の「食」

静岡県は健康寿命が全国1位である。また、浜松は日照時間が多いことでも有名である。私は、この太陽の力が健康寿命のカギではないかと思っている。家康公も人生の最期に選んだのは静岡県であり、選んだ理由の一つに「米穀の味が他国に勝る」と言っていたとされている。また、およそ300年前の百科事典「餅鯉（モチカツオ）」についても記載されている「和漢三才図会」には「遠州（新井）の鯉（タタキ）の味を上とする」と賞賛されている。つまり300年前から既に浜松の「食」は評価されていたということになる。健康マニアの顔も持つ家康公は、この地の食材が健康に良いと知っていたのではないかと。

### ●家康公が浜松を「出世」させる

「出世大家家康くん」を始めとして、浜松＝家康公と注目されている今が、浜松を全国規模で盛り上げる非常に大きなチャンスである。まずは、ゆるキャラグランプリで家康くんを1位にしたい。そうなれば、全国が「なぜ浜松と家康公が関係があるのか」と疑問に思うことになるだろう。そこで我々が、浜松と家康公の関係、家康公も好んでいた浜松の食材といった風土を歴史と合わせて伝えることにより、「天下取りを育てたまち」「健康的でおいしい食材がそろうまち」であることを広くPRできる。人を呼び込むことができ、浜松自体が「出世」するための工程表である。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●人で溢れるまちに

今年、ディズニーが30周年を記念したパレードを浜松で開催した際、私たちが実施している家康楽市の約10倍にあたる45万もの人が集まった。浜松のまちなかにあれだけの人を集客する力があることに驚いた。

しかし、パレード終了と同時に帰ってしまう人も多く、まちなかで食事をして行った人は3割程度と分析している。偶然にもディズニーが30年でこれだけの力を見せつけたように、浜松の30年後も人で溢れるまちなかとなるよう、今回の未来ビジョンに期待する。

あだち けんじ  
**安達 賢二さん**

チンゲンサイ農家

### ●農業に適しているまち、浜松

会社員時代から家庭菜園の延長で農業をしていた。今は専業農家として青梗菜を育てているが、浜松は気候が温暖で、雪が降らないためビニールハウスを使った農業がやりやすい。また、今の農業は生産するだけでなく、営業、販売や人を雇って使う能力も求められる。意外かもしれないが、会社員時代よりも人づきあいは深く濃いものになっている。浜松に住む人たちの地元意識の強さや、人との繋がりを大切にする気質も農業に適していると言える。



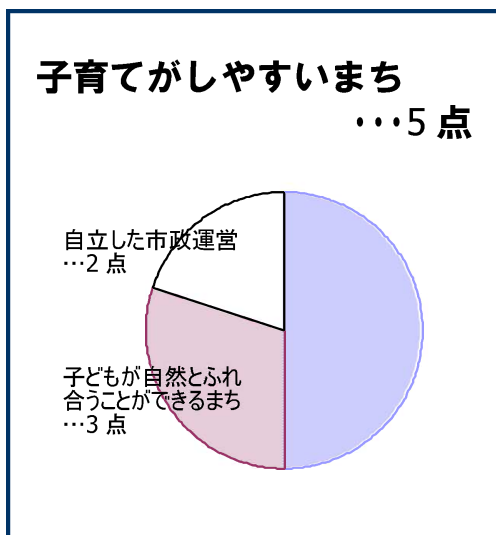
【安達賢二さん】  
農業を続けたい人、規模を拡大したい人への効果的な支援により、浜松の農業はまだまだ発展すると語る。

### ●農業人口の低下を防ぐために

TPP の話題が出始めてから、新規就農希望者が減り、農業をやめていく人も多い。農業人口を増加させる方法は、担い手（後継者）を増やすこと、新規就農者を増やすこと、現状の農家がもっと面積を増やすこと、の3つである。行政は新規就農者を増やすことに施策、資源を集中的に注入しているように感じるが、3点のうちでもっとも困難な手法である。それよりも後継者を増やす方が現実的である。そのためには、生計を立てていける農業を次の世代に残していくことが必要であり、行政等の支援機関には、実は十分に用意されている営農支援のための補助金の周知と、農地を借りたい人と貸したい人の積極的なマッチングを期待したい。

### ●「浜松に住んでいて幸せだ」と大人が思える環境づくりを

浜松市の人口を減らさないため、親がわが子を浜松で育てたいかという視点で考えてもらいたい。まず、浜松に住んでいる大人が、食・仕事・医療が充実して子育てがしやすいと思えるまちにするべきである。しかし、最近の度重なる政権交代に影響される急激な制度の変化に市民が付き合わされている感が否めない。浜松はものづくりが盛んであり、税収もある程度は安定しているのだから、市民が安心して暮らせるために、国に振り回されることなく、自立した市政運営を期待する。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●日本一を続けていきたい

浜松はチンゲンサイ生産量日本一である。今後も続けていくために、6次産業化、農商工連携などの次のステップを見越した展開も今の農業者には求められている。

行政には営農を続けたい人のため、農地を守る効果的な仕組みづくりを期待したい。

新たな道路整備や開発等、土地の形状に変化を加える際には行政は住民説明に来てくれるが、「土地の形状に変化を加えないための」住民説明があれば、農地を守る効果的な意見も出るのではないかと期待する。

# あべ えみこ 阿部 ジョイ 恵美子さん

株式会社フォーシーズンズ外語学院 教学グループ勤務



## ●「多文化共生」推進のために

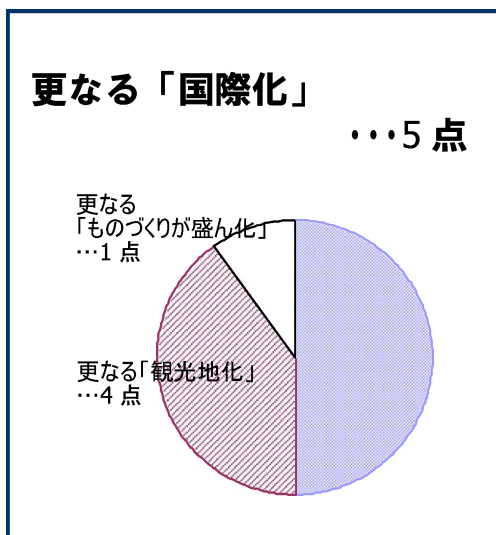
浜松市は国際交流が盛んで、他国の言語・文化について知る機会が身近にある。「多文化共生」（様々な文化を持つ人々と共に生きること）の社会を推進していくためには、言語だけでなく文化についての理解を持つことが非常に重要である。市役所や地域の団体が言語・文化の講座等を開催しているものの、それに対する人々の関心はまだまだ少ない。日本人・外国人を問わず、同じ浜松市民として、自発的に社会貢献のために行動していくことが多文化共生の実現を促していくと考える。浜松のものづくりを支えている貴重な外国人労働者のために、言語や文化に関する業務研修やワークショップを実施していくことが大事である。

## ●無料の駐車場・無料のシャトルバスでまちなかを活性化

浜松市はドーナツ化減少が起り、浜松駅周辺が寂しい印象になっている。まちなかが活性化するために若者が集まるような施策をしてほしい。例えば、室内娯楽施設やライブ会場の建設、「世界の料理展」のようなイベントを開催するなどして、人がまちなかに来たくするような環境を作る。無料駐輪場・駐車場、観光地への無料シャトルバスが整備も必要だと思う。

## ●企業の国際化に一役

浜松市は高度なものづくりが盛んである。グローバル企業の発展により浜松市の知名度がアップする。勤務先では、外国人が多い企業や外国への赴任者向けの言語・文化講座を実施している。受講者からは「なるほど！だから今まで外国人と意思疎通ができなかったんだ！」といった声を聞くこともある。



【浜松市への期待度グラフ】

## ●外国人市民がもっと近くに

行政サービスの中でも証明書の交付ができる自動交付機はすごく便利で、ほとんどの知り合いが市民カードを持っている。しかし、市政についての情報発信が弱いと思う。公的文書や広報物の翻訳、公的施設への通訳士の配備をもっと充実させてほしい。

また、スマートフォンで利用できるように SNS を活用して、若者が社会参加しやすい環境づくりをしてほしい。外国人とのディスカッションの記事や、外国人と日本人の考え方の違いを載せても面白い。今回のようなインタビューや意見交換会等があれば、市民と市役所がもっと近づけると思う。

あらき のぶゆき  
**荒木 信幸**さん

静岡理工科大学学長

ふじのくに未来エネルギー推進会議会長

椎ノ木谷保全の会会長 等



[荒木信幸さん]  
将来を考えると、高齢者の知識と経験が、  
必ず役に立つ！

### ●まちに「にぎわい」を！

都市の中心部における「にぎわいの創生」への努力が不足している。同じ静岡県静岡市は人間のおいぐんぷんする。呉服町をはじめ、人の賑わいを感じる。浜松は産業のまちだからなのか、庶民的な飲み食いする場所など人が交流する場所が不足している。特に駅前、松菱の跡地利用、ザザシティの活性化などが遅れている。行政は、実現可能な将来像を描きながら積極的に関与すべきだ。

### ●若者が浜松市で働ける対策を

浜松市の有効求人倍率が全国平均からすると大幅に低い。なぜこのような事態になっているかつき詰めて、対応策をとらなければならない。若者が浜松市で働けないという事態に陥ってしまうことを恐れる。

浜松市はこれまで新しいユニークなものづくりで、世界でもトップクラスの産業を築いてきた。急速なグローバル化のために、生産拠点を外国に移している企業、あるいは移そうとしている企業が続出している。金融機関や行政は、企業が海外に進出することを指導・奨励しているように思える。むしろ、この地域に留まって活動する企業を優遇する政策や産業の競争力を強化する政策を実行すべきではないだろうか。若者が安心して働ける都市づくり政策を立案し、実行してほしい。このことは高齢化社会に向かっている時代であるがゆえに最も重要で、緊急を要する政策であると思っている。

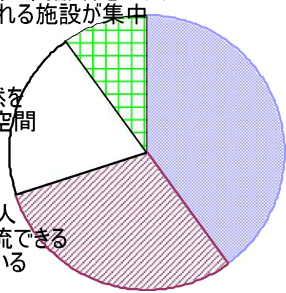
### ●効率の良いエネルギーの推進を

エネルギー資源の乏しい日本にあつて、再生可能エネルギーの活用策、新エネルギーの開発などは極めて重要な政策となる。最近推進されているメガソーラーのような新エネルギーの普及も良いが、様々な再生可能エネルギーについても推進すべきだ。

#### 企業が外国など他地域に流出することを防止し、若者が安心して働ける都市

…4点

- 都市の中心部に高齢者を元気にする活気あふれる施設が集中している …1点
- 都市部に自然を残し癒される空間を増やす …2点
- 居住地に人と人が気軽に交流できる施設が整っている …3点



【浜松市への期待度グラフ】

例えば、太陽熱温水器は既存の再生可能エネルギー利用機器の中ではエネルギー変換効率や費用対効果が最も高いと言われている。身近な技術で、効率の良いものはたくさんあり、太陽光発電を導入するよりも安価な場合がある。

身近なエネルギーを普及させて市民の意識が高まれば、ますます省エネルギー化が進むのではないか。しかし、高度な技術を含むものを普及させることは、普及させる側に確かな知識がなければならない。もちろん、行政の役割は重要であるが、市民に正しい知識をわかりやすく伝えることは、いくつになっても私の使命だと思っている。

あらた りか  
**荒田 梨賀さん**

浜松市ファミリー・サポート・センター職員

### ●子育て世帯に対するサポート役

浜松市ファミリー・サポート・センターが出来て10年。会員数、子育て世帯に対するサポート件数ともに年々増加をしている。

現在、当センターに約1,500世帯が登録しているが、まだ当事業を知らない方も多いため、必要としている方への周知と他人に子どもを預けることへの不安が少なくなる取組みをしていきたい。

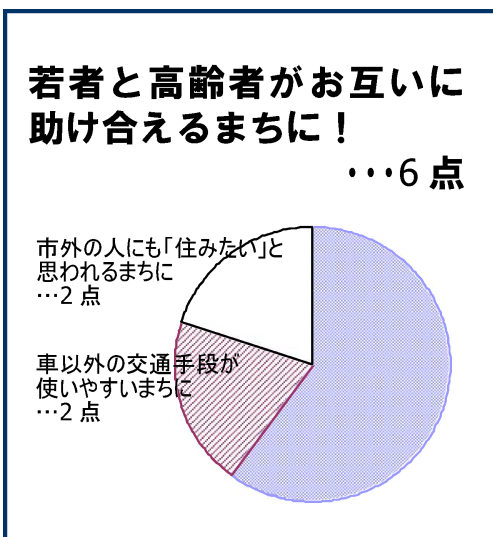


### ●強い郷土愛を持つ市民が多い！

浜松市に転居して約1年。実際住んでみると、浜松市民は郷土愛が強いと感じている。仕事で市民の皆様と接していても、住んでいる地域が話題になることが多く、浜松市は住みやすいと感じている人が多い印象を受ける。進学などで市外に出ても、最終的に浜松市に戻ってくる人が多いのではないかと思います。

しかしながら、自然溢れる浜名湖や、名産品のうなぎ等々アピールできる材料があるのに、浜松市と聞いてぱっと思い浮かぶイメージが少ないように感じる。例えば、ゴールデンウィークに盛り上がる浜松まつりが、市外から来た人や観光客がもっと参加しやすくなれば、浜松市をもっとPRできる材料になると感じる。

### ●若者と高齢者がお互いに助け合えるまち



【浜松市への期待度グラフ】

人口減少時代を迎える中、例えば、子育てサークルをつくるなど、自主的に地域に貢献する人が少なくなっている。地域の関係の希薄さは、業務の中でも感じる一方、きっかけや少し背中を押してあげれば、地域や世代間の「壁」を越えて、社会貢献したいと思う人も多いのではないかと。

超高齢社会を支えるのは、若い世代と元気な高齢者である。子育て政策や高齢者政策を分けるのではなく、違う世代が、お互いに助け合えるための橋渡しとなるような政策を求める。私もその一助ができればと考えている。

ありや としろう  
**有谷 敏朗さん**

オークラクトシティホテル浜松  
管理部管理課 課長

## ●人と人がつながるまち、浜松

浜松で生まれ育ち、ホテルの立ち上げからここで仕事をしている。この地は気候風土が素晴らしく、人とのつながりを大切にする市民性が特徴的である。サービス業は人と人とのつながりで成り立つ産業といっても過言ではなく、市民に愛されるホテルであり続けるためには、人とのつながりを大切にしていきたい。

## ●他には負けない「産業観光」が好評！

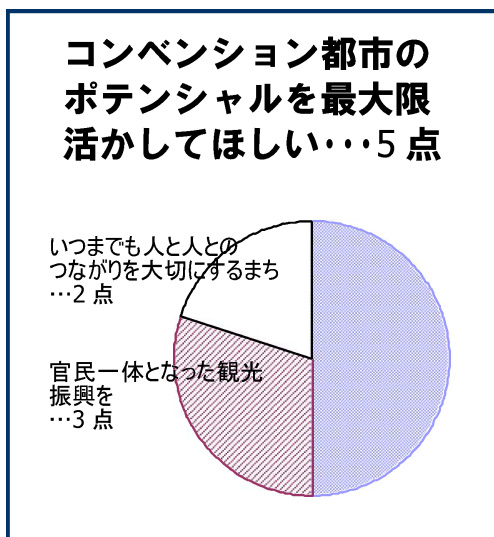
浜松は、使い勝手の良いコンベンション施設が駅と直結している。しかも新幹線も停車する。アクトシティのような、ホールと会議場が併設された施設が主要駅周辺に配置されているケースは珍しく、相当な強みであり、コンベンションの誘致はまだまだ可能である。また、コンベンション参加者には、浜松の誇るものづくり産業へのエクスカージョンとしての産業観光が好評である。一般的な観光では知名度のある観光地にかなわないかもしれないが、浜松の特性を活かし、地域が一体となれば、外から人を呼び込む方法はまだまだある。

## ●浜松駅に「のぞみ」を！

コンベンションの経済波及効果は大きく、まちなかの活性化にもつながっている。学会等のコンベンションは平日に開かれることが多いため、集客に苦慮しているまちなかの飲食店に大きな追い風になる。浜松駅に「のぞみ」が停車すれば浜松市でのコンベンション開催需要は更に伸びる。官民一体となり、「オール浜松」の体制で実現したい。



【有谷敏朗さん】  
既存産業も活かしつつ、オール浜松で一体的に観光支援に取り組んでほしいと語る。



【浜松市への期待度グラフ】

## ●浜松の魅力をもっと高めるために

浜松は観光振興への支援を積極的に行うべきである。富士山・三保の松原が世界文化遺産に登録されたことで、静岡県への誘客はますます見込める。さらに浜名湖も世界遺産登録を目指すといった静岡県知事の発言もあり、県内全域の広域的な視点で観光振興に取り組んでほしい。

アクトタワーは来年 20 周年を迎える。浜松駅前のシンボルであり続けるため、人とのつながり、一体感を大切にしながら、浜松市民、市外からのお客様に非日常を提供し続けていきたい。

あわくら としたか  
**栗倉 敏貴さん**

居宅介護支援事業所ジョアン（介護支援専門員、社会福祉士）



【栗倉敏貴さん】  
東西文化の交差点で、多文化共生が進む浜松は、懐の広さがあり、浜松を訪れる多くの人々が、出迎えに好印象を持っている。これからも「ようこそ浜松へ」の気持ちを大切にしたい。

## ●介護・福祉分野で深刻な人材不足

介護、社会福祉分野の大きな課題は、この分野で働く人たちの仕事が、社会から十分な待遇を得られない状況にあることである。この現状が、若者の業界離れを誘発し、深刻な人材不足となり、特に過疎地では待ったなしの様相を呈している。

また、近年、財政難により社会保障全体が緊縮傾向にある中、生活保護費の不正受給などの一部の問題を全体の問題として捉え、給付適正化の名の下に、本来必要なものまで削減の対象としようとする動きがある。

悪質な不正受給などのケースには当然対応する必要があるが、サービスを提供する側の都合ではなく、幅広い情報と見識に基づいた、本当の意味での「給付適正化」が議論されることを願う。

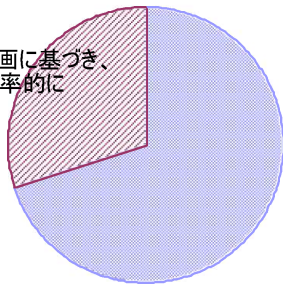
## ●多様な地域性に応じた柔軟な政策を

浜松市は、日本で2番目の市域を有し、都市部、農村部、山村部、漁村部と多様な地域性を持つ。これは、プラス面がある一方、統一的・画一的な政策では、「悪しき平等」を招き、狭い地域の課題解決には制約が生じてしまう場合がある。自治会や連合会単位など、区の単位よりももっと小さいコミュニティにおいて、生活課題に沿った柔軟な行政対応を望む。

また、交通環境に関して、浜松駅を中心とした放射状のバス路線が整備されているが、超高齢社会を迎え、充実した保健・医療・福祉の地域資源を活かすためにも、横断的な交通網の整備も必要になるのではないかと。

子どもから高齢者まで、  
一人ひとりの市民が人として  
尊重されるまち ……7点

確かな都市計画に基づき、  
地域資源が効率的に  
使われるまち  
……3点



【浜松市への期待度グラフ】

## ●起こり得る現実を見据えて

現代人は、インターネットで簡易に情報が得られるため、自分の力で情報を調べ、分析し、理解する能力が弱まっている。市民一人ひとりが、30年後の自分の姿を予測しながら、自分、家族、友人など多くの人にとって住みよいまちづくりを自らのこととして考えていく必要がある。

その上で、行政は、楽観的な予測に立つのではなく、危機予測を含めた「起こり得る現実」を見据えて、30年後に必要な人材や設備が不足しないようにしなければならない。超高齢社会において、高齢者や障がい者など弱い立場の人々を支えていくことに耐えられる人材を増やし、自治体として浜松市が危機的状況に陥らない政策が求められている。



いいだ てつや  
**飯田 哲也さん**

ユニー株式会社 プレ葉ウォーク浜北・アピタ浜北店支配人



### ●子どもたちにワクワクを届けたい

浜北に出店して 30 年が経つ。店舗の形態は変化しているが、お子さんやお孫さんを連れだしたりと何世代にもわたって来店いただいているお客様もおり、感謝を申し上げたい。私自身、浜松の出身であり、小さい頃は母に連れられて市街地のデパートへ出掛け、食事をする度にワクワクした。地域とともに歩んできた店舗として、今の子どもたちにも、私が体験したようなワクワクを届け、恩返しをしたい。

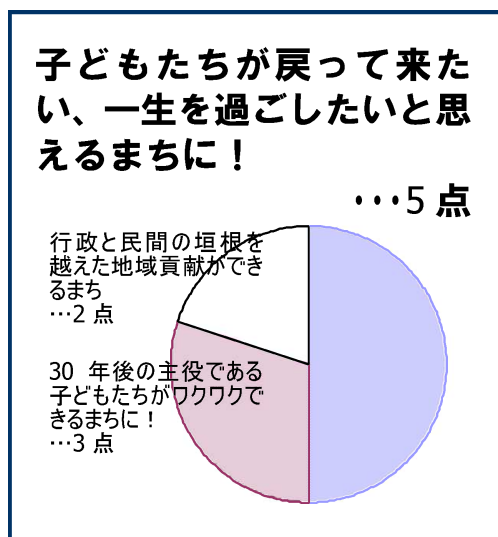
### ●戻って来たいまち、一生を過ごしたいまちに！

浜松は自然環境に恵まれている。また、産業も発展しているため雇用環境も整っており、住みやすいまちである。これからの人口減少、超高齢社会においては、「住みやすいまち」に必要な要素は、医療・福祉の充実なども求められる。

子どもたちが進学などで浜松を出ても、戻って来たいと思えるまちに、そして、一生を過ごしたいと思えるまちになってほしい。

### ●地域貢献、会社貢献、従業員貢献

企業の存在意義は、3 つある。まずは、地域貢献である。地域のために役立つことが最重点である。2 つ目として、利益を上げ、企業として存続するため、会社自身への貢献も必要である。さらに、3 つ目は、従業員がやりがいを持って仕事に臨める環境を整備する、従業員への貢献である。地域貢献の一環としては、行政との連携を進める余地はまだある。例えば、選挙の投票所としてショッピングセンターなどを使ってもらえれば、投票率のアップにお手伝いできるのではないか。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●お客様へのサービスは進化し続ける

高齢の方が増え、お客様の行動範囲が狭まってくると、店舗に求められる形態も変化してくると考える。

我々も現在、ネットスーパーや電話宅配の事業を行っているが、よりきめ細かな宅配サービスを展開するためには、拠点の数が重要となる。そうした際、お客様の徒歩圏に点在するコンビニエンスストアのような店舗形態の重要性は更に高まるのではないかと。

また、小売業はお客様満足競争、自治体は住民満足競争の時代に、お客様に安定したサービスを提供するためには、店舗側も常に進化し続けることが必要であり、常に変化する市民ニーズを的確に把握することは、サービス業と行政に共通して求められる要素である。

いけがい きょうこ  
**池貝 恭子さん**

ヘルスボランティア大地

## ●ヘルスボランティア活動を通じて地域貢献

佐鳴台協働センターを拠点に、地域の高齢者に対し、健康を維持し、地域の交流を深めるため、体操や“脳トレ”など、一緒に学ぶ活動が続いている。ボランティア活動は、基本的に会場まで来られる高齢者を対象としているが、徒歩で会場まで来られない方や一人暮らしで引きこもりがちな方への支援が課題。運営側の高齢化も進む一方、参加者側が運営側になってくれる方もいるのはうれしい。

また、ボランティア活動の後継者が育っておらず、今後の活動の担い手が見つからないのも悩みのタネ。

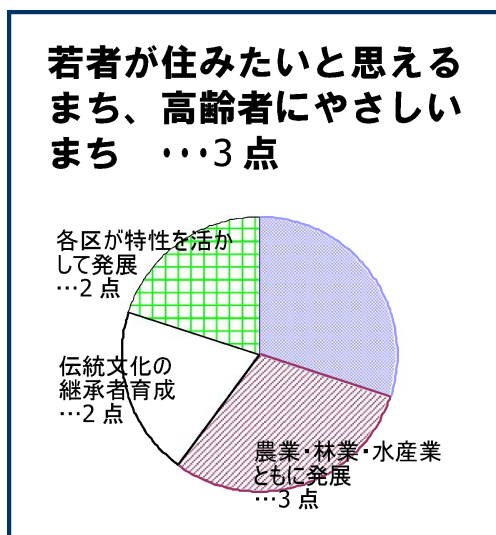


## ●住みやすい浜松市

温暖な気候に恵まれ、また適度に都会であるのに加え、浜名湖や天竜川、北区や天竜区などは自然が豊かで、住みやすいと感じている。うなぎをはじめとした数々の特産品や、オートバイ、楽器等世界に誇れる産業もあり、国際ピアノコンクールは“音楽のまち”を感じる良い取組みだと思う。

## ●若者の人口を増やす取り組みを！

30年後を見据えて、若者の働ける場をもっとつくり、進学等で県外に出ても浜松市にUターンできるよう支援をしてほしい。また、農業や林業にも積極的に携わることができるような環境整備が必要である。政令指定都市になって6年が経ち、今後、各区それぞれの特性を活かした発展を望む。



【浜松市への期待度グラフ】

## ●ボランティア仲間からの意見

- 若者に対する婚活を企画してほしい。
- 農地の活用、特に休耕地の利用で農業を工場化して作物をつくるような、大型農業を展開してほしい。
- 地元の木材を積極的に使ってもらおうようPRする。林業に関わる人への支援や、若い人へ技術の伝承が必要。
- 伝統文化を若い世代に伝承できるよう、学校現場などで体験学習を増やし、教育の中に取り入れてほしい。
- 個々を尊重しつつ、お互いを助けあえる地域作りと教育。
- 子育て支援を充実させてほしい。

いけや たかこ  
**池谷 貴子さん**

NPO 法人ころころねっと浜松代表

## ●子育て支援の意識が高い西部地域

静岡県内で子育て支援の講座などを開催した場合、西部地域で人の集まりの良い傾向が見られる。西部地域は、子育て支援の意識が高い地域であるけれど、市民協働の考え方が浸透していないので、なかなか市民と行政が手をつなぎにくくなっている。そこには、コーディネートする人材が必要となる。さらに、次の活動を担う若い人を育てることが難しくなっていることも課題となっている。



[池谷貴子さん]  
親子サロンのころころルームの運営や多胎児支援、出張託児などを展開。会員 29名。京都市出身。

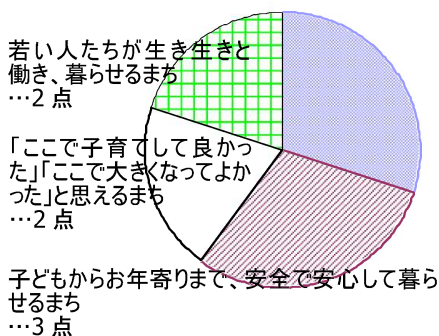
## ●「親の力」を育てる時代に

かつて、子どもが生まれ育っていくことは自然なことだった。しかし、今では、健全に成長させることが難しい時代になった。問題なのは「親の力」が決定的に不足していること。子育てを知らないまま親になった人たちが、子育てを通じて成長していく時に、手助けや助言できる年配者がそばにいないため、基本的な「育児の方法」「子どもとの関わり方」を学ぶことができなくなった。子どもについて知り、具体的な子育ての方法を身に付けるためには、親になる前の準備教育や親になった後の「教育プログラム」が不可欠となる。もちろん支援者も古い子育て観にとらわれず、常に新しい知識を学ぶことも忘れてはならない。

## ●まちづくりは人づくりから

行政や市民団体は、地域のマンパワーを活用し、将来を見据えた「人づくり」に時間とお金を掛けるべきだと思う。子どもや若者の活動を支援したり、市民が学べる場を増やしたり、市民とともに事業を行ったりすることで地域力を育てることができるのではないか。この地域力が将来のまちづくりで大きな力となる。さらに、浜松の地で生まれ、学び、就職し、家庭を築き、子どもを育て、まちづくりに参加するような、人づくりの地域循環も必要だと考える。

### 自然の中で市民が憩い、 子どもが育つまち…3点



【浜松市への期待度グラフ】

## ●子育てするなら浜松だねと言われたい

何かを犠牲にしないと子育てと仕事が両立できないのはおかしい。市には、子育てしながら働ける環境づくりに取り組んでもらいたい。保育所や学童保育を整備するだけでなく、働き方そのものを見直すことが必要だと考える。ヨーロッパ諸国を見習い、仕事から早く帰れて、長期休暇も取れるなど、日本全国の先駆けとなることで、子育てするなら浜松だねと言われたい。

今後は、講座受講者の自主的な育児サークルづくりもサポートしていけたらと考えている。

いしかわ あつし  
**石川 敦史さん**

なかよし第2保育園 園長

## ●お互い「育ちあう」ことが重要

平成2年より、なかよし第2保育園に勤務し、事務、給食業務から保育の現場まで、様々な実務経験を重ね、園長になり現在に至る。

近年は、親の価値観が多種・多様化し、権利意識も以前より増しており、個々に合わせた対応が必要である。現場主義を大切にし、多種多様なニーズを汲み取りながら、子ども一人ひとりの育ちに合わせた保育、教育を目指している。

子どもが健やかに成長していく姿を見ることは、やはり何よりも嬉しい。親、子、保育園、そして地域がお互いに支えあい、協調し、育ちあうことが重要である。



## ●「やらまいか」精神を取り戻す

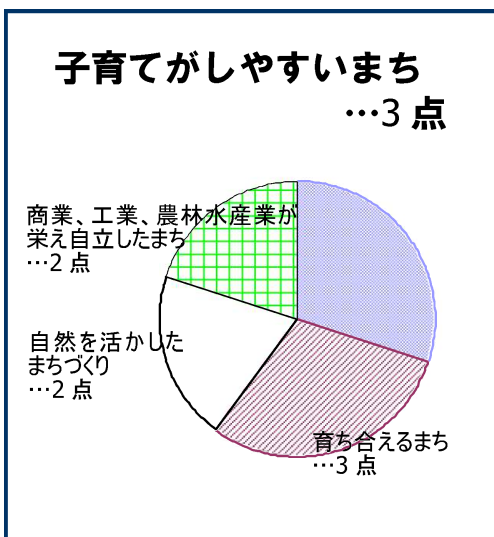
車、オートバイ、楽器、織物等、このまちに様々な産業が生まれ、大きく成長したのは、何事にも「やってやろうじゃないか！」という「やらまいか」精神があったからだと思うが、この精神が段々と薄れてきていると感じる。

最近では、すぐに結果を出さないといけない、失敗が許されない風潮があるが、浜松では、まずやってみて、失敗を重ねても、「やらまいか」精神で、それを活かして前向きに取り組み、様々なモノを生み出してきた。「やらまいか」精神を取り戻し、30年後も成長し続けるまちになって欲しい。

## ●子どもが健やかに育ち、育ちあえるまち

以前は、路地裏、小学校の校庭、公園、稲刈りが終わった田んぼ等で活発に遊んでいる子どもの姿をよく見かけた。しかし、最近では、外で遊ぶ姿があまりみられなくなってしまった。子ども同士で、育ちあえる機会がめっきり減ってしまったと思う。

また、電車やバス、スーパー等で赤ちゃんや子どもの泣き声が鬱陶しがられたという話もよく聞く。以前は、親だけではなく、地域で子どもを育てていたのに、子どもの居場所が様々な場所で少なくなってきている。行政も子育て支援に関する様々な施策を打ち出しているが、大切なのは市民一人ひとりが「浜松の子どもは私たちが育てる」という意識を持ち、地域にそういった雰囲気があふれること。子どもが健やかに育ち、育ちあえる環境づくりができることを望む。



【浜松市への期待度グラフ】